



■発行所／(株) びゅ〜すまいる編集舗・みまもり未来プレス編集部
 ■2025年8月21日発行号 ■発行者・編集人／八木澤 晃 ■毎月第3木曜日発行

i-PRO

<https://www.uber.com/jp/ja/>

「Uber シニア」と「シンプルモード」提供開始

～国内初の高齢者向け配車サービス～

Uber Japan(東京都港区)は、オンライン配車アプリ『Uber』において、シニア世代向けの新機能「Uber シニア」および「シンプルモード」の提供を7月24日より開始した。通常アカウントに加えて高齢者向けアカウントを設けるのは、配車アプリ業界で国内初の取り組みである。

近年、70代のスマートフォン保有率は8割を超え、シニア世代のデジタル利用が着実に広がっている。一方で免許返納が進む中、通院や買い物といった日常生活に必要な移動をどう支えるかが課題となっている。「Uber シニア」は、そうした社会背景を踏まえ、シニアがより安心して車両を利用できるよう設計された。2025年6月に米国で導入され、日本を含む世界約70カ国へ展開が広がっている。

新機能では、家族がシニアユーザーのアカウントを作成・管理できる仕組みを備え、乗車状況をリアルタイムで確認できるトラッキング機

能や、支払いを一括管理する仕組みを整えている。加えて、従来のアプリ画面から余分な情報をそぎ落とし、文字やアイコンを大きく表示する「シンプルモード」を新たに用意。スマートフォンの操作に不安を抱える利用者でも直感的に使える点が特徴である。

さらに、自宅や病院、スーパーなど、よく利用する乗降地点をあらかじめ登録できるため、数回のタップで配車が完了する。支払い方法も本人以外に家族名義のクレジットカード

を設定できるなど柔軟性を高めている。代理配車や目的地の設定、ドライバーとの連絡も家族が代行でき、サポート体制を整えていることも安心感につながる。

Uber Japanは「シニア世代が自由に、安心して移動できる社会の実現を目指す」とし、今後も幅広い世代が利用できる環境整備を進めていく方針である。現在、Uber Taxiは29都道府県に拡大しており、帰省や日常の外出などで高齢者を含む家族の移動を支える基盤が整いつつある。



シニアが元気になると 日本が元気になる！

元気シニア倶楽部 会員募集中!!

——入会費・年会費なし——

一般社団法人

日本元気シニア総研

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 4-4-5 第3伊藤ビル4階
 tel.050-5533-3100 fax.03-5791-5859 Email. info@genkisenior.com



政府備蓄米と食品でこどもたちを支援

～全国 1.2 万世帯に「夏休み給食便」～ ——フローレンス——

認定NPO法人フローレンス(東京都千代田区)と一般社団法人こども宅食応援団(佐賀市)は、フードバンク愛知(愛知県北名古屋市)、オイシックス・ラ・大地(東京都品川区)と連携し、全国の子育て家庭約1.2万世帯に政府備蓄米12トンを含む食品を届ける「夏休み給食便 ～政府備蓄米でこどもたちを支える～」を7月から実施する。

物価高や米価の上昇により生活が厳しさを増す中、夏休みは給食がなくなるため主食の確保が難しく、家庭の安定やこどもたちの栄養状態に影響が及ぶ。現場からは支援を求める声が早くから寄せられており、今回の取り組みは緊

急性の高い食支援として位置づけられる。プロジェクトは4団体が役割を分担し、政府備蓄米の確保、食品メーカーからの寄付、全国ネットワークを通じた調整を行う。届け方は配布や宅配、パントリーでの提供、訪問での手渡しなど地域の事情に応じて柔軟に対応する。

今回の支援は農林水産省が実施する「こどもへの食育用政府備蓄米無償交付制度」を活用。全国の支援団体を通じ、困窮する家庭にお米やレトルト食品など保存性の高い食品を届ける。

フローレンスはこれまで国や自治体と連携し、コロナ禍を含む緊急時に食支援を続けてきた。同法人は「厳しい状況に

ある家庭が食を通して守られるよう、政府備蓄米の安定的な確保と、より重点的な子育て世帯支援が必要」としている。「夏休み給食便」は8月末まで展開される予定であ



<https://florence.or.jp>

ミニストップにアバター接客導入

遠隔支援で省力化と対応力向上——ミニストップ——

ミニストップ(千葉市)は直営200店舗で、株式会社kiwami(東京都千代田区)のアバター接客システム『xR Cast SupportPhone』を導入した。コンビニ業界での遠隔アバターサポート導入は初めてである。

同システムは3Dアバターを活用し、スタッフの困りごとを遠隔で支援する仕組み。オペレーターが映像を通じて現場を把握できるため、従来の電話やメールでは伝わりにく

かった機材トラブルにも迅速に対応できる。結果として解決率の向上と対応時間の短縮が期待される。

アプリ登録など複雑な操作は不要で、店舗側はタブレットやスマートフォン、オペレーター側はPCを用意するだけで運用できる。短期間で導入可能であり、デジタルに不慣れなスタッフでも使いやすい設計となっている。

少子高齢化による人手不足が深刻化する中、アバター接客は現場の省力化と顧客体験向上の両立を目指す新たな取り組みとして注目される。kiwamiは「効率化だけでなく、人間らしさを大切にしたいサービスを実現する」としている。



<https://xr-cast.com/solution/r-and-d/xr-cast-supportphone/>

アイデアの**商品化**を推進する
身近な**発明展**
ヒント

特許料
3億円!

アイデア
募集中

特許料
6千万円!

発明家たちの
登竜門

企業の
新製品
開発に



小さな創造を社会に活かす
一般社団法人**発明学会**

<https://www.hatsumei.or.jp/>

こちら『元気シニアビジネスアドバイザー!!!』

ブレン・モンジュ・林野 均の「シニア`萬、遊記」第95回

まだまだ熱中症に注意を

お盆は過ぎましたがまだまだ暑さは続きそうです。今年もたくさんの方が熱中症にかかりました。

熱中症というのは、高温多湿といった気温や環境の影響で体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温の調整機能が働かなくなったりして生じる様々な症状のことです。熱中症の発症場所は直射日光が当たる屋外が多いと思われるかもしれませんが、実際は4割が住居内で、1割は商業施設などの不特定多数が出入りする屋内で発生しており、合わせて5割が室内での発生だそうです。

熱中症による死亡者のうち、約8割は65歳以上の高齢者が占めているそうです。高齢者が発症しやすい理由としては、高齢になる

と暑さを感じにくくなり、体温調節機能が低下するためです。加齢とともに暑さのセンサーが鈍くなってくる上、体内の水分量が減少していますし、喉の渇きを感じにくい傾向が強いため水分補給も遅れやすくなります。また、肥満の人は水分量の少ない脂肪を多く蓄積している上に、皮下脂肪は体内の熱を逃がす効率を妨げるので熱中症のリスクをさらに高めます。

対策としてはいろいろな所で目にすると思います。以下に挙げてみましょう。

- ①室内を涼しくする。冷房や除湿機・扇風機などを利用して涼しく風通しの良い環境で過ごす。
- ②喉の渇きを感じる前に水分を計

画的に摂る

③お風呂や寝るときにも注意。入浴時や就寝中にも体の水分は失われていきます。入浴前後に十分な水分補給をしたり、寝るときには枕元に飲料を置いたりしておくといいでしょう。

④お出かけに注意。外出時は汗で水分が失われたり、日差しや熱の影響を受けやすくなったりします。服装を工夫する他、水分や休憩を十分にとりましょう。



Author／林野 均 (はやしの ひとし)

プランニング・ブレン・モンジュ代表／一般社団法人 日本元気シニア総研究委員

『元気シニアビジネスアドバイザー』資格を取得後、元気シニア総研究委員として、シニア向け商品やサービスの取材を「自らのシニア目線」で精力的に行なっている。

<https://planningbrain.com>



デイサービス生活相談員ネットワークの『生活相談員』講座

ちっちゃいマメをおっきく育て、夢のある未来を創造します。

株式会社スリービーンズ

<http://3beans.jp>

Let's enjoy your senior life

元気なシニアライフを応援します！

<https://planningbrain.com>

シニアのためのコンシェルジュ

プランニング・ブレン・モンジュ

tel.090-3682-3310

